

オンリーワン



バリアフリー
ペーパー

6月号

平成24年6月26日発行

偶数月発行

この機関紙は、西条市障害者相談支援センターがパソコン就労をめざす障害当事者グループ「オンリーワン」に編集を委託し、協同で作成したものです。



6月に入り、玄関先のツバメの巣から4羽のヒナが顔をのぞかせるようになりました。親鳥が餌を運んでくるのをじっと待ち、いっせいに精一杯口をあける姿はとても愛くるしく、眺めるのが日課です。1日に何度もせつせと餌を運ぶ姿を見て、近々母親になろうとしている自分を重ね合わせました。8月から、私久保は出産のためお休みを頂く事になりました。お世話になった皆さんに感謝しています。また、7月中旬からは、育児休暇から津島さんが復帰することになっています。よろしくお祈りします。
(支援センター 久保)

「ゆる座」に参加して



梅雨晴れの日曜に「ゆる座」という面白い名前のイベントに参加しました。

今回49回目は、青函連絡船だった「羊蹄丸」の見学でした。最終日だったのと、B級グルメ大会もあり、大勢の人が炎天下の中長蛇の列を作りました。車椅子からおり階段をおぶって上がってくれたスタッフの汗がふきだしていました。

「ゆる座」のメンバーは、年代・障害もさまざま。作業所に通ったり働いている人が集っています。メンバーの竹内さんは、ビーズのブレスレット作りや山登りを企画して、みんなに教える役を引き受け大評判だったそうです。「仲間がいて楽しい。」と笑顔で答えてくれました。次回は、記念の第50回！！7月7日七夕祭りでバーベキューです。皆さんも参加して心も体も「ゆる～」くリラックスしてみませんか？



「ゆる座」とは・・・障がいのある方ない方、いろいろな人が集い活動している余暇支援活動の団体です。

「癒溜座（ゆる座）」には、心も体も「ゆる～く」リラックスしてもらいたいという意味と、「癒されに溜まる場」となっていけばという2つの意味が込められているそうです。スポーツ、料理、悩み相談、皆で決めた企画など、内容は盛りだくさんです。

毎月1回日曜日、新居浜市内を拠点に活動中。

問合せ：生活支援センターわかば 0897-41-4881

支援センターくすのき 0897-32-5630



(イラスト しんすけ)





当事者の奮闘記 未来への足跡(あしあと)



今回は今年 81 歳になられる渡邊トミ子さん取材させて頂きました。渡邊さんは若々しく話題も豊富で、はつらつとされていたので、年齢を伺ってびっくりしました。



渡邊さんは 31 年間、小学校教諭を勤めていました。元気で明るい教諭生活だったことでしょう。退職後、様々なボランティア活動に奔走していたある日、自転車でトラクターと衝突して、右膝関節の複雑骨折。足に金属を埋め込む手術をして1ヶ月間ベッド上で脚を牽引。その後、汗と涙のリハビリが始まりました。理学療法士の指導を受け、痛みに耐えながらリハビリに励む苦闘の毎日が約 10 ヶ月続きました。不屈の精神でリハビリを乗り越え、杖を突いて歩けるまでに回復。杖を突きながらの生活に慣れてきたころ、時々脚に痛みが走るようになりました。

装具をつけたり、金属を抜く手術を受けた後も痛みが消えず、評判を聞いて松山の整体院のもとへ。そこで紹介された県内の病院へ、そこからまた県外の病院へ、と受診を重ねましたが、いずれも治療は困難と言われ、体調や精神的にもダメージが強く、心がふさぐ日々でした。

そんな頃、東京に住む娘さんが「東京の病院で診てらってはどうか」と勧めてくれ、東京へ赴きました。東京の病院では「そんな遠くから来られたのですか？」と優しく労われ、検査や診察をした後、丁寧に説明してくれました。

「事故の時に靭帯が損傷していたが、未治療で経過してしまったようです。あまりにも長く放置されたままだったので、今となっては治療も難しい。激痛が続くのであれば、手術で痛む部分を取り除き、自分の骨を骨移植する方法もあるが・・・」ということでした。東京の二つの病院の診たてが同じだったので納得し、痛みについても理解できました。手術も検討しましたが、今は手術を受けずにリハビリを続けながら経過しているそうです。



ご主人が亡くなったのをきっかけに、自宅から近いデイサービス「まほろば」に通い始めました。「まほろば」では、学生時代の同級生や教諭時代の父兄・同僚と再会したり、教え子が「まほろば」のスタッフになっているなど、たくさんの懐かしい再会が待ち受けていました。ご自分が小学一年生の頃、担任だった恩師にも再会するなど、喜びもひとしおだったそうです。



《明るい掛け声がホールに響き渡りました。》



《体の曲げ伸ばしをしてリフレッシュ》

「まほろば」で再会し、お互いに元気なエネルギーを交流させ、数年前から音楽クラブの講師をするようになりました。童謡や懐メロなど幅広く選曲し、発声練習から、コーラスグループに分かれて輪唱なども行います。教諭経験を活かし、皆で和気あいあいと気楽に楽しめる音楽クラブとなっており、皆から「渡邊先生」と親しみを込めて呼ばれています。

「足を痛めたおかげで、様々なハンデを持つ人たちと出会い、元気をもらいました。」と渡邊さん。



《一人ひとりに気を配り、声をかけながら歌を唄います。》



《自費出版した「系」》

渡邊さんは執筆活動にも積極的で、兄弟姉妹 10 人がそれぞれの思い出を綴った「系」、自分史「多賀の里」、戦時中の体験をまとめて挿絵も描いた「ひこうき雲」を自費出版したそうです。

「有名な作家の書いた小説も良いが、ここに集う人たちの生き様や生い立ちを描いたものをまとめてみたい。」と構想中でした。出会った人の心に耳を傾け、話を聴く。日ごろから相手の話を穏やかに聴いているからこそできる、暖かいまなざしが印象的でした。

役割や生きがいを見つけ、前向きな心を持っているということが、元気の秘訣なのかもしれません。人とのつながりから元気をもらい、感謝しながら楽しんで日々を暮らす。そういったことを体現している方だなと感じました。

様々な障がいや身体の不調を抱えながらも、明るく、人に優しく、常に前向きに活躍される「渡邊先生」を見習って、私も日々を生きてゆこうと思いました。(美奈子)



のぶちゃん・たけちゃんのべすとしょっと



「泳ぐ」

たくましく大空に舞う鯉のぼりを撮りました。
この鯉のぼりは「宇和れんげまつり」で写しました。れんげが一面に咲く季節に行われるこのお祭りは様々なイベントや150店を超える出店があります。風をうけ悠々と泳ぐ鯉のぼりが人々の笑顔を見下ろしていました。 撮影：のぶちゃん



「紫陽花ロード」

6月6日壬生川北条にて写しました。
地元の方々が丹精込めてお世話されています。今年も素晴らしい「紫陽花ロード」が見えます。オンリーワンが出来上がる頃には満開になるでしょう。

撮影：たけちゃん

投稿コーナー「たしっほ」

繋がりや輪が又ひとつ結ばれて

パソボラネットは青い鳥かも

美奈子

パソボラネットでパソコンを教えてもらったことが私の原点だと思っています。そこからオンリーワン、ソロプチミストと輪が広がってゆき、私は今とても幸せなのでその心を詠みました。

(パソボラネット=西条を中心に活動するパソコンボランティアネットワーク)

編集後記

今回渡邊さんの取材にご一緒させていただきました。
長年培われてきた経験や色々な能力を生かして皆さんと一緒に楽しんでおられる様子を、目を輝かせてお話してくれました。生き生きしていらっしゃる様子はとても81歳にはみえません。自分で出来るボランティアをどんどんされていました。

私も「夢を持ち 何事も プラス思考」で、渡邊さんをお手本にしたいと思います。

(麗子)



発行：西条市障害者相談支援センター（西条市社会福祉協議会）

編集：オンリーワン編集委員

〒799-1371 西条市周布 606 番地 1 西条市東予総合福祉センター内

TEL：0898-64-2600 (代) FAX：0898-64-3920 E-mail：soudan-saijo@galaxy.ocn.ne.jp